

竹 中 大 工 道 具 館 NEWS

未 来 へ つ な ぐ 、 匠 の 技 と 心

Takenaka Carpentry Tools Museum News Letter

Vol. 28

2013 | Winter - Spring



巡回展「数寄屋大工 ー美を創造する匠ー」名古屋会場実演イベント「数寄屋大工の技に迫る」(11/23開催、講師：(株) 安井空工務店)の様子

CONTENTS

- COLUMN 千代鶴是秀と野村貞夫 ～「神雲夢」について～
- NEWS ビデオ「和釘をつくる」を製作
研究紀要第24号のご案内
- EXHIBITION テーマ展示「京都の天然仕上砥」
- SEMINAR 「技と心セミナー」のご案内

伝えたい、受け継がれてきた和の美意識と技

東京・神戸・名古屋の3会場を巡回した展覧会「数寄屋大工ー美を創造する匠ー」は各会場とも予想以上の反響をいただき、好評のうちに終了することができました。記念講演会や体験教室・見学会にも全国から定員を超える申し込みや来場者がありました。ライフスタイルの変化により和の建築文化の衰退が叫ばれて久しいですが、来場者の熱気にふれる限り、和の伝統美に対する憧れは日本人の心に深く残っていると感じさせられました。クリエイター側がうまく提案できれば、新たな建築の潮流が生まれてくるのではないでしょうか。当館ではこれからも和の伝統美とそれを支える職人の技を再発見できるような企画を積極的に展開していく予定です。ご期待下さい。

千代鶴是秀と野村貞夫 ～「神雲夢」について～

土田 昇（土田刃物店）

昭和27年元旦、大工の野村貞夫は土田刃物店を訪ねた。
「是秀に刃物を注文すると2、3年は待たされると聞いたが、（曲面切削用の）仕上げに使う逆反り刀を一丁作ってもらいたい」との依頼であった。土田は数日後、年始のあいさつに是秀を訪ねた折に、この注文を野村の言葉通りに伝えた。正月七草、是秀は逆反り刀を作り上げ、土田に届け、「これは土田君への年始に差上げる。この方の次の注文を聞いておいて下さい」と言い残した。正月15日に再来した野村は「早ええなあ」と逆反り刀を受け取り、その刀を持って千代鶴延国宅を訪ねた。値踏みしてもらうためである。延国曰く、「俺が作ったら、最低2千円はいただく」。野村は土田に2千円渡した。土田はそのまま是秀に届け、「次の注文は」との是秀の言葉に、「野村さんは剣先が欲しいそうです」と伝えた。

節分の日には是秀は剣先を作り上げる。「先生、御代は」と問うと、「もう2千円いただいております。次の注文を聞いておいて下さい」と返答される。土田と野村は前回同様、延国に値踏みしてもらおうが、土田はそのお金をそのまま届けたのでは失礼と感じ、野村より渡された金額分のとらやの羊羹を贈った。そしてまた「次の注文」である。耳おろし研磨不要の鉋刃として、野村が木型を作ったものを是秀に渡す。

「神雲夢」と銘が切られた鉋刃およびウラ金は、6月4日に完成した。6月4日は、是秀が石堂壽永に入門した記念日である。是秀は毎年その日を記念日とすべく、手をかけた作品づくりを心掛けていた。この鉋刃は1万円で、是秀が野村に直接売り渡した。野村はお金がなかったため、妻君のシンガーミシンを売って支払いをする事になる。是秀は、

お金を野村よりいただくと、「次の注文は」と問う。野村は「早く出来てもお金が無いので、今度は1年くらいかかってもいいから小玄能を一つ」と注文した。

千代鶴是秀はなかなか作ってくれない名工と世間に知れ渡っていた。それなのに野村に対してすぐに応じたのはなぜであろうか。おそらく、野村の職人としての技術度の高さや人格の高潔さに接して、是秀の製作意欲が高まったのであろうと推測する。

耳おろし研磨不要の鉋刃自体は、実は野村発案のものではなく、台と接する裏スキ面の押さえ部分に段差をつける方式としてすでに存在していた。学生や初心者にとって、耳部の研磨は上手く出来ない部分であったのであろう。そんな素人用の機構を、野村は名人是秀の作品で試してみたかったのである。是秀もまた、その実験的試みに興味を持って作品製作にあたったのである。

この鉋刃の裏スキは、通常は刃渡り方向と平行につけるが、垂直にほどこされている。いわゆる縦スキ目である。よほど注意して仕上げないと、裏スキ側の研磨後にスキ目が消えずに残ってしまうが、是秀はそれを精度良くこなしている。おそらく、鉋刃正面両端にほどこされた（耳おろし研磨不要とするための）段付加工と呼応させるデザインとして、縦スキ目を選択したものと思われる。しかし野村は、苦勞して手に入れたにもかかわらずこの実験的作品を使用していない。「鍛冶屋に道具を注文すると、大抵の場合、至らぬ部分があるものだ。千代鶴是秀は、こちらが要求したもの以上のものを作り上げてしまう。そういうものは使えませんよ」と未使用の理由を語られていた。



「神雲夢」 鉋刃（裏）および ウラ金

当館蔵

※常設展 1F 名工品コーナーに展示中



表には「為 野村貞夫雅匠 千代鶴是秀造 昭和二十七年皐月 七十九歳」との切銘あり

NEWS

Ⅰ ビデオ「和釘をつくる」を製作

薬師寺の伽藍復興や錦帯橋の架け替えに使用された和釘を鍛えたことで知られる四国の鍛冶、白鷹幸伯氏。白鷹氏とその跡を継ぐ三代目の興光氏の和釘製作のプロセスを紹介するビデオ（14分）を製作しました。和釘の特徴、つくり方とともに、仕事に熱意と誇りを持って打ち込む白鷹親子の姿を紹介します。

ビデオは当館ビデオライブラリーでご覧になれるほか、教育機関向けにDVDの貸出も行います。

※貸出用DVD（11分）は小学校国語科「千年の釘にいどむ」（光村図書出版）の副教材としてご利用いただけるようになっていますので、ぜひご活用ください。



《教育機関への貸出方法》

貸出をご希望の方は希望日の2ヶ月前までに下記までお問い合わせください。（利用料無料。貸出返却時の送料はご負担下さい）

《お問い合わせ先》078-242-0216

竹中大工道具館 教育普及担当

EXHIBITION

テーマ展示

京都の天然仕上砥

期間 2013年4月23日（火）～6月16日（日）

場所 竹中大工道具館 1F テーマ展示コーナー

鉋や鑿などの刃研ぎに欠かせない砥石。現在では人造砥石が普及していますが、仕上砥に関しては、古くから京都を中心とした丹波山地で採掘されてきた天然仕上砥（合砥）に勝るものはないと言います。道具の性能は仕事の効率に直結するため、「道具は道具屋から買ってきて使うものでなく、大工が自ら作るものである」と言われます。本展示では、採石される山や層による違いや、色や紋様で変わる銘柄を中心に多彩な天然仕上砥の世界を紹介します。また、採石や加工に使用された道具も取り上げます。



天然仕上砥

当館蔵

NEWS

Ⅰ 研究紀要第24号のご案内

当館スタッフならびに館外の研究者による大工道具・建築技術に関する論文集です。

今回は下記の3編を掲載しています。

（3月8日発行予定）



『竹中大工道具館研究紀要第24号』

（A4版・500円）

- ① 石社修一 「現代鍛冶技法の保存調査報告 その1ー鉋鍛冶「も作」銘 神田規久夫の記録ー」（仮）
- ② 植村昌子 「斧の刃痕の分析 ー飛鳥時代から鎌倉時代の建築部材刃痕に関する調査報告 その1ー」（仮）
- ③ 大村都 「出張授業「千年の釘にいどむ」実践報告」（仮）

「技と心セミナー」のご案内

大工道具と建築技術の専門家ならびに当館スタッフが最新の研究成果や知見をご紹介しますセミナーのご案内です。

参加費 無料（入館料は別途必要）

開催時間 13:30～15:00（13:00開場）

会場 竹中大工道具館

セミナー参加申込み方法

ホームページから申込み

当館HP (<http://dougukan.jp>) セミナーページの申込みフォームをご利用ください。

▷お申込み人数は、ご本人ならびに同伴者1名に限らせていただきます。

▷携帯メールアドレスはご使用になれません。

往復ハガキで申込み

[往信用裏面]

① セミナー番号 ② お名前（フリガナ）参加者全員分

③ 郵便番号・住所 ④ 電話番号

[返信用表面]

・宛先にご自身の郵便番号・住所・氏名をご記入ください。

・裏面は未記入のこと。

[お申込み先]

〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-18-25

竹中大工道具館「技と心」セミナー係

▷往復ハガキ1枚につき4名までお申込みいただけます。

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

※受講案内ハガキ・メールは、締切日以降に発送いたします。

※締切日以降は電話にてお問い合わせください。

[58] 2013年3月16日（土）（締切り2013年3月1日）

鉋鍛冶の技 その1～「も作」神田規矩夫編

講師：石杜 修一（三条製作所 石杜鍛冶屋）

本セミナーは共同研究事業として行われた「現在の大工道具を造る鍛冶屋の全国調査～現代鍛冶の技法を保存」の調査報告第一部です。かつて東京の鍛冶技術は国内最高といわれましたが、今ではほとんど姿を消し大工道具を造る鍛冶はわずか数名となってしまいました。東京では最後の鉋鍛冶となった神田氏は「も作」銘で高い評価を受けています。その仕事場で2週間、一挙手一投足を鍛冶屋の目で記録しました。

[59] 2013年5月18日（土）（締切り2013年5月3日）

庖丁の守りと研ぎ方

講師：廣瀬 康二（食道具 竹上・庖丁コーディネータ）

たかが庖丁、されど庖丁、料理庖丁の在り方をお伝えします。

食生活を支える大切な食の道具・庖丁。庖丁を通しての食を愉しむ大切さや、庖丁の重要性、日々の庖丁の守り＜心を寄せて手入れ＞について実演を交えながらお話しします。また、砥石を使つての庖丁の正しい研ぎ方をワークショップ形式で何人かの方に体験して頂きます。

※庖丁研ぎ体験をご希望の方は備考欄にその旨をご記入の上、お申し込みください。事前に庖丁をお預かりすることになりますので、ご了承ください。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

[60] 2013年7月20日（土）（締切り2013年7月5日）

江戸時代の木造建築リサイクル

講師：中村 琢巳（当館研究員）

木を組み立てる日本建築は解体し、再利用できることが大きな特徴です。自然素材からなる屋根材や土壁、畳、襖などにもまた、リサイクルして使い続ける多彩な工夫が込められています。本セミナーでは、江戸時代に盛んに行われていた古建築の移築や転用、古材リサイクルの実例を幅広く紹介し、森林資源を有効活用していた伝統的な知恵をさぐります。

ACCESS 来館のご案内

開館時間 9:30～16:30（入場は16:00まで）

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始（12月26日～1月7日）

入館料

	個人	団体
一般	300円	250円
大・高生	200円	150円
小・中生	100円	50円
障がい者手帳をお持ちの方 及び付添者1名	無料	
65歳以上の方	100円	

※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

交通案内

▷JR・阪急・阪神「三宮駅」徒歩18分

▷JR・阪神「元町駅」徒歩10分

▷地下鉄「県庁前駅」徒歩5分

▷新幹線「新神戸駅」タクシー10分

駐車場4台（普通車）あります。

連絡先

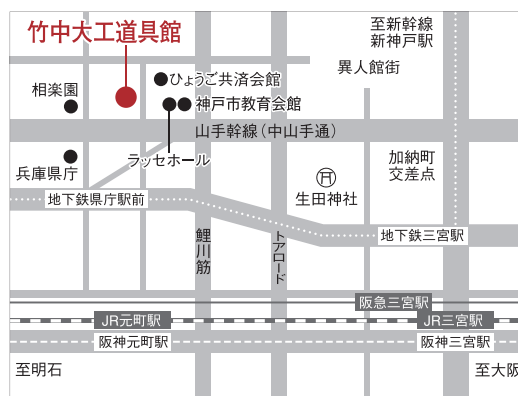
〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-18-25

TEL 078-242-0216

FAX 078-241-4713

URL <http://dougukan.jp>



※企画展・イベントなどの日程は変更になることがあります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。※本誌のお届け先の変更・追加および送付停止については電話・FAX・メールにてお知らせ下さい

本誌の無断転写・転載・複製は禁じます。©2013 Takenaka Carpentry Tools Museum

竹中大工道具館NEWS第28号

2013年1月20日発行

編集・発行：公益財団法人竹中大工道具館

印刷：神戸新聞総合印刷

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM

